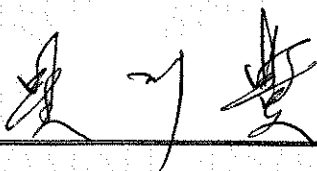


新庄市議会 行政視察報告書

報告者



◎ 視察日程

平成30年11月12日（月）～11月14日（水）

◎ 調査事項

(1) 熊本県宇土市

◎ コミュニティバス・ミニバスについて

- ◇ 導入の経緯
- ◇ 運営の効果
- ◇ 今後の課題

(2) 熊本県玉名市

◎ 新庁舎建設について

◎ 調査事項

(1) 熊本県宇土市

◎ コミュニティバス・ミニバスについて

◇ 導入の経緯

平成23年4月；第五次総合計画において、市民ニーズや地域の実情に応じた公共交通施策に取り組むことを決定。

《目的》

- ・ 高齢者等の移動手段を持たない方の
通院・買い物等の日常生活の移動の確保
- ・ 郊外部の交通空白地から市街地部への移動の確保
- ・ 利用ニーズの高い医院や商業施設、
公共施設間の移動の確保

平成24年7月；地域公共交通会議において、コミュニティバスの試行運行詳細決定、同年10月；運行開始。

◇ 運営の効果

◎ コミュニティバス《実績》

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
利用者数(人)				
1日当	21.4	24.4	26.0	29.1
1便当	2.1	2.4	2.4	2.6

平成24年10月；運行開始。

平成25年10月以降；主な改正

- ・ルートの簡素化
- ・運行区域の拡大
- ・時間帯の変更
- ・乗継券,回数券,免許返納者割引制度の導入
- ・停留所の廃止
- ・ICカード乗車券導入
- ・運行区域の簡素化
- ・運行便数の増便

◎ ミニバス《実績》

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
利用者数(人)				
1日当	8.1	8.8	9.4	10.7
1便当	2.0	2.2	2.9	3.1

平成24年10月；運行開始。3ルート

平成25年4月以降；主な改正

- ・6ルートに拡大(市内全地区；運行)
- ・運行区域の拡大,再編
- ・市街地への直接乗り入れ
- ・フリー降車区間の導入
- ・運行順の変更
- ・運行日数,便数の増便

◇ 今後の課題

◎ コミュニティバス

運行事業費は年間900万円前後で推移し、運賃収入の収支率は当初の9%台から12%台に改善が見られる。

しかしながら、市補助額が50%台をこえ、費用対効果の観点から考察しても、利用者の利便性の向上を図り、利用者数の拡大・財源としての国庫補助の増額等の方策が肝要との課題が存在する。

◎ ミニバス

運行事業費は年間650万円前後で推移し、運賃収入の収支率は当初の10%台から14%台後半に改善が見られる。しかしながら、市補助額が60%台をこえ、コミュニティバスと同様な状況と課題が存在する。

■ 所 感

気候風土の違いはあるが合併による地域間の格差が存在し、地域の形態や生活習慣を考慮しつつ、公共交通網形成計画の作成機関を中心に、広く市民の想いに答えていくことが大事である。

目的意識を堅持しながら、市内循環バスの運行を起点とし、市民生活の安定を基盤とし、利便性の向上を図る努力が必要である。

◎ 調査事項

(2) 熊本県玉名市

◎ 新庁舎建設について

◇ 建設の経緯

平成17年10月、玉名地域1市3町が合併し、新しい『玉名市』が誕生しました。

旧庁舎の利用も検討されたが、諸問題が提起され、新庁舎建設へとの方向性が決定した。平成18年度に建設基本構想が策定され、翌年19年に公募型プロポーザルの実施を中心とした基本設計が決定。しかしながら、平成21年11月に新市長が誕生し、建設計画を白紙に戻し、建設位置も含めて見直すこととなった。平成22年4月に、建設検討委員会を設置し、市長への建議・再検討の後、建設の決定がなされた。当初の規模を縮小、総事業費の縮減を図り、ようやく、平成27年1月に新庁舎が開庁された。

■ 所 感

新庁舎の建設については、長年にわたる準備期間が必要とされ、財源の確保、建設位置の決定、政治状況の変化等を想定し、又、市民ニーズに応えられる拠点整備の計画を推進することが求められる。